

自覚的屈折検査(ピンホール板:円孔板による方法)

準備物 検眼枠・遮閉板・検眼レンズ・円孔板(ピンホール板)

目的
 ・屈折矯正が正しいかの判断
 ・散瞳後の視力矯正
 ・ピンホールを以下PHと略す。

孔の大きさは色々。
 散瞳した場合の視力矯正は通常の瞳孔の大きさ3mm位が適当。

片眼ずつ5mにて視力矯正をする

例)
矯正視力が出ない!

説明
 裸眼又は矯正レンズ上に1mm位のPH板を装用して視力が向上するか?

NO又は低下
 あまり変化なし
 中央に白内障があるなど。又、正視の場合は回折効果の為、少し見にくくなる。

結果・記載例)

RV = 0.05 (0.1 × S-7.0D)
 (0.5 × S-7.0D: PH/1mm)

少なくともPHで視力が向上する場合、最高視力はこれである!

レンズホルダーの最も内側に入れること。

他覚値が全く判らない場合、裸眼でここからスタートしても良い

矯正(又は裸眼)上から被検者にPHを通して視標を見させ、PH板自体を(前後以外に)動かすと像はどう動くか?

この方法は0.25~0.50Dまでの屈折異常が判ると言われているが難しい。

PH板と視標(像)が同行する

よく判らない

PH板と視標(像)が逆行する

近視?

遠視?

被検者の見え方なので、検査法と反対。

PH板を被検者の眼から遠ざけると視標が小さくなるか?

PH板を被検者の眼から遠ざけると視標が大きくなるか?

近視

よく判らない

遠視

上記の手がかりから再度視力矯正を行うと視力が向上するか?

よく判らない場合は、とりあえず裸眼でも矯正でもPHにて視力が向上したなら、再度矯正しなおす。

不正乱視?

角膜面の検査で異常があるか?

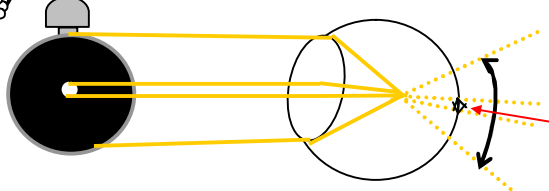
視力矯正ミス

不正乱視

屈折異常・不正乱視以外である

説明

なぜPHを装用すると視力が向上するのか?・・・網膜上の錯乱円が小さくなるから



ピンはあっていないが、網膜上の錯乱円が小さくなる

長所

眼の光学的収差の除去。焦点深度が深くなる。

短所

網膜照度が低下する。回折の影響が出る。